

## 前期実施計画(平成 26 年度～平成 30 年度)

※抜粋：「県立高等学校再編振興計画」(平成 26 年 10 月 高知県教育委員会) 「前期実施計画」(22 から 23 ページ)

### (2) 須崎工業高等学校と須崎高等学校との統合について

(スケジュール)

須崎工業高等学校と須崎高等学校とを統合し、適正規模を維持した新たな学校を設け、高吾地域の拠点校とする。須崎工業高等学校の敷地に統合後の新たな学校を設置する。

〔実施年度〕 ○統合に向けた学科改編 平成 29 年度

○統合完了 平成 31 年度

#### ア 統合に向けた考え方

高吾地域の生徒数の減少が続く中であっても、より良い教育環境を保証することができる適正規模の、1 学年 4 学級規模以上の学校を維持することが重要であるが、両校ともに生徒数が 3 学級規模の学校となっている。

また、須崎高等学校は、新莊川の河口付近に位置しており、南海トラフ地震による津波被害が危惧されていることから、津波被害から確実に生徒を守ることや被災後の学校の早期再開を考えると、高台への移転が望ましい。

こうしたことを踏まえ、震災に強く、適正規模を維持した活気ある高吾地域の拠点校を設けるため、須崎工業高等学校と須崎高等学校を統合し、新たな高等学校を須崎工業高等学校の敷地に設置する。

#### イ 目指す姿

統合後の新たな高等学校は、就職に強い須崎工業高等学校と、進学指導の実績がある須崎高等学校のそれぞれの強みを生かし、さらに発展させることで、高吾地域の拠点校として、大学進学等にも対応できる学力を保証するとともに、体験的な活動を通して勤労観・職業観を養い、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応する。そのため、習熟度に応じた授業やきめ細かいカリキュラム編成による学習指導、国公立大学進学により対応できる教育課程を実施するとともに、工業科では、幅広い専門的な知識・技術を学びながら、専門分野を深く学ぶ体制を整え、職業教育の充実を図るとともに就職支援の強化を推進する。

また、地域を支える人材の育成を図るために、地域と連携した防災教育の推進や、ドラゴンカヌーに代表される地域おこし活動に取り組むことで、社会性や協調性の育成を図る。さらに、生徒の希望に応じた多様な部活動の充実や生徒会活動、体育祭・文化祭等の特別活動の充実を図ることで、生徒が切磋琢磨できる環境づくりを推進する。

こうした取組を進めていくことで、地域の方々から信頼され、地域内の中学校の生徒が行きたいと思う学校づくりを推進し、地域内の中学校からの進学率向上を目指す。

#### ウ 統合の方法

統合後の新たな高等学校は、全日制の課程で普通科 3 学級と工業科 3 学級の 1 学年 6 学級規模とし、1 学年 1 学級規模の定時制を併置する。

統合にあたっては、須崎工業高等学校は、平成 29 年度入学生より、現在の 4 学科の内容を継承する方向で学科改編を行う。須崎高等学校は、平成 29 年度入学生より、総合学科から普通科に学科改編を行う。

統合は、平成 31 年 4 月 1 日に実施し、平成 31 年度入学生は統合後の新たな学校で募集する。

統合後の新たな学校の校名等の取扱については、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら平成 28 年度末までに県教育委員会で検討し、決定する。

#### エ 教育環境の充実

統合までの間、防災教育で地域と連携した取組などの両校の生徒の交流を積極的に進めるとともに、学力向上や教員の指導力向上に向けた取組を進めていく。

また、ハード面の整備については、移転先となる須崎工業高等学校の校舎の増改築や設備の更新、グラウンドの拡張などを行うとともに、津波などの災害時には地域の避難路としても活用できる通学路の整備を行うことも検討する。